



2026年2月13日

日本鉄道労働組合連合会

## JR東海ユニオン第40回定期中央委員会

2026春闘勝利、衆院選勝利をめざした活動方針を確立



鎌田中央執行委員長

JR東海ユニオンは2月3日、京都市内で第40回定期中央委員会を開催し、2026春季生活闘争方針を含む当面の活動方針を決定した。

鎌田隆司中央執行委員長（JR連合副会長）は、「安全の確立」「組織の活性化」「ハートフルカンパニーの実現と2026春季生活闘争」「政治・政策課題」など、当面の活動に対する考え方を明らかにし、「働く者の目線や声に基づき行動し、組合員の想いが常に反映された、組合員主体の組織を希求し、将来にわたる『会社の発展と組合員・家族の幸せ』の実現に向け、今後も決してブレることなく労働運動に邁進していく」と力強く訴えた。

JR連合を代表して上村良成会長は、安全確立の取り組みや2026春季生活闘争の取り組みについて産別方針を説明するとともに、「2026春闘勝利、衆議院議員総選挙の勝利をめざして取り組んでほしい」と呼びかけた。

執行部からは、「標準乗数4とした定期昇給の年度初完全実施」「純ベア13,000円を含む月例賃金総額20,800円以上の改善」「夏季手当3.1ヶ月」を柱とする2026春季生活闘争方針をはじめ、新たな情報ツールである「TUNAGアプリ」の普及とその導入に伴う取り組み方の見直しを含む組織活動に係る方針、中央新幹線計画推進や36協定改訂に係る課題の解決に向けた交渉方針、第51回衆院選の取り組み方針等を盛り込んだ活動方針案が提起された。

これに対して19名の中央委員から、「ベアや夏季手当の満額にこだわった粘り強い交渉を望む」「TUNAGアプリの普及に向けて中央本部とともに取り組む」「我々の賃金原資にも関わる運賃・料金制度の課題解決もにらみ、来る衆院選で国会議員懇所属候補の必勝に向け取り組む」といった発言がなされた。

その後、執行部答弁を経て、相良夏樹書記長（JR連合特別執行委員）は、「組合員の想いをしっかりと受け止め春闘交渉に臨む。TUNAGアプリ普及や各種活動の見直しは、その本質を見失わずに進めたい」と総括答弁で述べ、全議案が満場一致で採択された。

